

平成二十八年 度 入 学 試 験 国 語

京 華 女 子 中 学 校

※答えは解答用紙にはつきりと書きなさい。

□ 漢字に関する以下の問いに答えなさい。

問一 ①②③④⑤⑥の——線部のカタカナをそれぞれ正確な漢字に直しなさい。

- ① 生存キョウソウ。 ② 世界中とボウエキする。
 ④ ココロヨク引きうけた。 ⑤ 誕生日をイワう。
 ⑥ クウゼン絶後。
 シンソウを究明する。

問二 ①②③④⑤⑥の——線部の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① 健やかに成長する。 ② 条件反射。
 ④ 切れ味を試してみる。 ⑤ 功名を立てる。
 ⑥ 芸術家をめざす。
 故郷を訪ねる。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これからの時代、これまでとは少し違った勉強をする必要がある。

これまで考えられてきた勉強というものは、大体において「知識」、ないし情報を取り込むことであつた。小学校からひたすらに知識を頭に入れ、試験の時にはその知識を使って答案を書いて、点をとるのである。この知識というものは、大変有用であると考えられている。したがって知識をたくさん持つことは、その人間の価値を高められるのである。しかし、満点の答案を書くようとしている人たちが持っているような知識がたくさんあっても、それは本当の人間の力ではない。

問題は、それが本当に人間として大事な能力であるのかどうかだ。ただ知識ばかり集めて喜んでいると、だんだん馬鹿になる。もつとも、学校でこんなことを考えたら授業を行うことができなくなってしまう。それで、そういうことは言わないことになっていく。

小学校からだんだん知識が増えていき、それと引き換えにどんどん頭がはたらかなくなってしまう。ここで言う「頭が悪い」というのは、「新しいことが考えられない」「判断をする力がない」ということ。

知識が増えると、どうしてもその知識をそのまま使用して物事を処理しようとしがちになる。自分自身で考えることが、ついっいおっくうになりがちだ。本に書いてあることをそのまま頭の中に入れ、それによつていれば自分で考える必要はなくなる。

知識をありがたがるのは歴史的なもので、どうにもならないこともある。ヨーロッパでは一六世紀の終わり頃には、知識というものは社会的「a」を持っているという考え方が確立した。以来、教育機関はとにかく知識を身につけることを教えた。それが大体今も続いている。

詰め込んでいけば、頭の中はいずれ知識でいっぱいになるが、それは良いこと、素晴らしいことだとみなされる。だが本当にそうだろうか？ 自分の頭の中が、他人が考えた知識、本に書いてある知識で満杯になることが、そんなにいいことだろうか？ トンデモないことでむしろ逆だ。そんな知識だけの頭では身動きが取れなくなってしまう。いわば、知識メタボリック症候群。知識のぜい肉で太ってしまうと、軽やかで柔軟な思考など到底望めなくなる。

知識メタボリック症候群の人は、一〇〇点満点の答案を書けるかもしれないけれど、この先三〇年もすれば、結局はつまらん人間にしかかなりえないということがわかってくるだろう。心ある人は自分の責任で、自分の力でものを考えて行動できる人間でなければいけないと気づくことになる。例外はもちろんあるけれど、だいたいにおいて知識が増えると、ものを考える力が減っていく。知識と思考の間では反比例の関係が成り立つのである。

物知りはだいたいにおいてものを考えない「b」がつよい。古くからこれを「物知りの馬鹿」と言った。他にも、「なんでも知っている馬鹿」とか「学問のある馬鹿」などもこれに当たる。つまり、知識はあるけど、自分でものを考える力、新しいことを考え出す力がない人のことである。これは人間としてはあまり高級ではない。そういうことは昔からすでにわかっていた。しかし一方で、常に満点の答案を書けるような、正確な記憶をもっているものは人間以外に存在しなかった。そこで記憶力の優れた人間が、尊重されてきたのである。

ところが、今からおよそ六〇年前に、二〇世紀中ごろ、かのコンピューターというものが登場した。これは人類にとつて大事件だった。いくら優秀な人間でも知識を詰め込むには「c」がある。それに対して、コンピューターの記憶は正確無比だ。記憶、知識に関して人間はコンピューターに勝てるわけがない。実際、さまざまな場面において人間はコンピューターに負け、仕事を奪われてきた。

近年は大学まで出た人が就職難でウロウロしているけれど、コンピューターに仕事を奪われた結果だと考えられる。大学を出て

も知識や事務処理についてコンピューターにかなう能力を持っている人はすくない。合理的に考えれば、知識しかない人間などものはやいらぬということになる。なぜなら、コンピューターのほうがずっと **d** がいいからだ。優秀なコンピューターを一台備えれば、何十人ぶんの、いわゆる事務的な仕事をこなしてしまふ。下手な人間を雇うよりよっぽどいいわけだ。

これまでの人間は、のんびり知識だけ溜め込んでいけば、試験に合格することができた。試験に合格して学校を出れば、社会の中でエリートとして生きてゆかれた。しかし ^⑥ そんなのんきな時代は、コンピューターの登場で終わってしまったはずである。

人間は非常に ^⑦ 保守的な生き物だ。いったん始めたことはなかなか変えない。コンピューターが現れて六〇年。最近になってみんなやっと、人間というものの本当の力がいったい何なのか、少しずつだけ気づき始めた。すくなくとも、ものを記憶して、それを再生するという **e** だけでは、充分ではない。記憶と再生に関しては、人間はコンピューターにとてもかなわない。長い目で見れば、そのうちに、多くの場面で人間の代わりにコンピューターが仕事をするという時代がやってくる。その時すべての人間が失職するというのであれば、実に哀れなことだ。元々、コンピューターは人間がこしらえたもののなのに、そのコンピューターによつて人間が仕事を失い、生きがいで失う——そんなことにならないためにも、知識万能主義から脱却 ^⑧ しなくてはならない。

中学卒業後すぐに社会に出た人と、大学を出てから社会に出た人を比べると、単純な知識量は大学卒のほうがすぐれている。

1、ものを考える力は、中学卒の人に大学卒の優秀な学生が負けるということがときとして起こる。そういう事実を目の当たりにすると、長い間お金をかけて学校なんか通うのはばかみたいに思えてくるかもしれない。実際、日本に名だたる大企業の中には、当時の小学校を卒業しただけで社会に出た創業者が創り上げたものがいくつもある。

ただ単に名門の学校を卒業しただけという人は、知識や技術は持っているけれど、本当に自分でものを考え、ものをつくり、世のため人のために働くのだという精神には欠けていることが多い。

2、どうしたら立派な人間になれるのか。深刻に考えなくてはならない問題である。これはコンピューターに考えてもらうというわけにはいかない。

実は、すべての人間は天才的な能力を持って生まれてくるのである。ほとんどすべての子どもが例外なく、素晴らしい記憶力、素晴らしい感覚力を持っている。ところが残念なことに、その赤ん坊を育てる周りの大人たちが「人間を育てる」ことをまるで知らない。だいたい子どもが持つて生まれた天才的な能力を活かしきれずに枯らせてしまふ。親のことを悪く言いたくないけれど、事実だからしかたない。

【ア】 小学校に通うころには生まれた時の何分の一かになっている。

【イ】 われわれの一生の間で、一番頭のいい時期、人間としての可能性が最も大きい期間は、生まれてから四〇カ月くらいしかない。あとは徐々に力が落ちていく。

【ウ】 みなさんは「中学生より高校生のほうが偉い」、「中学生はまだまだ幼稚だ」と思っているかもしれないが、これは間違い！

【エ】 子どものもつて生まれる天賦の才能には、消費期間がある。

【オ】 中学や高校に進むとさらに落ちて、大学に行くころにはずっと低いレベルにまで落ちてしまふ。

むしろ中学生のほうがまだ生まれつきの能力が残っている。それが年とともに、上の学校へ行くと、どんどん失われていく。

すべての人が赤ん坊の時は素晴らしい力を持っている。その能力がうまく育ていかなかったとしたら、それはまわりの責任。人類は教育というものに関して、いろいろな努力をしてきたけれど、いまだに正しい方法が見つからない。それどころかとてもない間違いをしているようにさえ見える。

ちなみに、生まれたばかりの赤ん坊の能力がいかに高いかということを示すいい例がある。それは「ことば」。ことばを知って生まれてくる子どもは一人もいない。しかし、一般的な育てられ方をしていれば、四〇カ月の間にいちおうはことばを理解し、使えるようになるのである。

その間、「ことば」というものを教える先生がいたのか？ 実のところ、いないに等しい。赤ちゃんにとつてどうということばが一番大切なということを考えながら教えている親は、ほとんどいない。

3 親は、幼児のことばの先生としては失格である。そういうあわれな先生に育てられながら、たった四〇カ月ぐらいの間にことばをマスターする。ほとんど例外なく言葉を覚える。

こういう驚異的な能力は英語の発音なんかについてもいえる。

4、「th」と「s」の音の区別は、普通の日本人にはほとんどできない。「i」と「r」の発音も、中学ぐらいから英語の勉強を始めたのでは耳で聞き分けるのはむずかしい。しかし、赤ん坊のときに英語をきかせていけば、それらの発音はなんでもないことだ。

小さいときのこのものすごい能力。それをわれわれは長らく見誤っていたのである。赤ん坊は何もわからない。知的な活動なんてぜんぜんできない。こう思いこんできた人間は大きな間違いを犯してきたことになる。さらにおどろくべきことに、われわれは頭の中に、自分なりのことばの「文法」をこしらえている。それは、たいへん細かく、複雑で微妙な文法である。赤ん坊の頃からきちんとことばを教えてくれない大人の中にあつて、無意味なことばをたくさん聞きながら、その中から不要なことばを捨て、大事なものだけ拾つて、自分自身の力で文法をつくりあげる。たいていの子どもがその力を持っている。死ぬまで持ち続けるけれども、それを自覚することはない。

世の中では、大学が一番重要な教育を行っているように思っている人が大多数だが、大きな誤り。たしかに、専門的な知識や特殊技術は大学でなければ身につけることができないだろう。だがそれは、人間として生きていくのに絶対必要なものではない。本当に大切なものは、遅くとも一〇歳くらいまでの間にわれわれの体に宿っていなければならないのである。

過ぎ去ったことにかかずらつていても憂鬱になるだけだ。憂鬱になる暇があつたら、われわれは他の方法を探さなくてはいけない。コンピューターなんかにはできない、人間にしかない力を引き出さなくてはならない。

自分たちが生まれた直後に素晴らしい能力、天才を持つていたということ——これをすっかり自覚したい。そして、今からでも遅くはない、できるだけ人間力を復活させるようにつとめる。もちろん、そう簡単に取り戻せるものではないけれども、要は気の持ちようだ。新しい力を習得すると考えるのではない。もっと早くやつていればなんでもなかったことを、少し遅れたから面倒になっただけだと思えばいい。

人間がコンピューターに勝つためにはどうしたらよいか。

その方法は「考える」こと。コンピューターは「記憶する」ことにかけては敵なしだが、「考える」ことを知らない。よく、プロの棋士と碁を打ってコンピューターが勝つたなんていうニュースを耳にする。コンピューターが考えているわけじゃない。知識として大量のデータを記憶しているのである。

本当の意味で「考える」ということは、日本人だけでなく、現代を生きる人間にとっても極めて難しい。5、われわれは「知識」をもっているからだ。

知識がある程度まで増えると、自分の頭で考えるまでもなくなる。知識を利用して、問題処理できるようになる。借り物の知識でなんとか問題を解決してしまう。

もちろん知識は必要である。何も知らなければただの無為で終わってしまう。ただ、知識は多ければ多いほどいいと喜ぶのがいけない。良い知識を適量、しっかり頭の中に入れて、それを基にしながら自分の頭でひとが考えないことを考える力をつける。ところが、である。ふり廻されないうためには、よい知識はほどよく忘れなければならない。しかし、この「忘れる」ことが意外に難しい。

学校の生徒で、勉強において「忘れてもいい」と言われたことはあるだろうか？ もちろん、今の学校教育ではそんなことは言わない。ともすれば「忘れてはいけない」と教え込む。すくなくとも、「どうしたらうまく忘れるか」などという学校はないはずだ。

しかし実は、「覚える」と同じくらいに、「忘れる」ことが大事で、しかも難しい。この「忘れる」ことによって、人間がコンピューターに勝っているのである。コンピューターは「覚える」のが得意な反面、「忘れる」のはたいへん苦手。人間のように、うまく忘れるということができない。

そもそも未知なものに対しては、借り物の知識などでは役に立たないのが当たり前だ。それまでの知識から外れた、わけのわからないモノゴトを処理、解決するには、ありきたりの知識では役に立たない。いったん捨てて、新しい考えをしばらく出す力が必要となる。そういう思考力を身につけられれば、コンピューターがどんなに発達しようと、人間が存在価値を見失うことはないだろう。

(外山滋比古「知ること、考えること」(ちくまプリマー新書『何のために「学ぶ」のか』所収)による)

問一 a e にあてはまる最もふさわしい語を、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。
ただし、同一の語を二度以上用いないこととします。

ア 価値 イ 機能 ウ 傾向 エ 限界 オ 事実 カ 能率

問二 1 5 にあてはまる最もふさわしい語を、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同一の語を二度以上用いないこととします。

ア しかし イ だから ウ 例えば エ では オ なぜなら

問三 【ア】～【オ】は文章の順序が違っています。論理的に正しい順序にならばかえて、記号で答えなさい。ただし、【イ】は二番目にくるものとします。

問四 ——線部①「この知識というものは、大変有用であると考えられています」とありますが、「知識」が「有用である」という考え方を表す語句を、本文中から六字でぬき出して答えなさい。

問五 ——線部②「頭がはたらかなくなってしまう」のはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 頭の中が知識で満杯になることが、素晴らしいことだとみなされるから。
イ 知識をありがたがるのは歴史的なもので、どうにもならないことだから。
ウ 「頭が悪い」というのは、「新しいことが考えられない」ことでもあるから。
エ 知識が増えると、その知識を使用して物事を処理しようとしがちになるから。
オ ヨーロッパでは一六世紀以来、教育機関が知識を身につけることを教えた。

工知識が増えると、その知識を使用して物事を処理しようとしがちになるから、ヨーロッパでは一六世紀以来、教育機関が知識を身につけることを教えたから

オヨローツパでは一六世紀以来、教育機関が知識を身につけることを教えたから。

問六——線部③「つまらん人間」とありますが、「知識メタボリック症候群の人」が「つまらん人間」であるのはなぜですか。

解答用紙の「……から」につながる形で、本文中から三十三字でぬき出し、最初と最後の五字ずつを答えなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの符号を含む場合は一字と数えます。

問七 ―線部④「これは人類にとつて大事件だった」とありますが、「人類にとつて」の「大事件」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 記憶力の優れたものとして尊重されてきた人間が、コンピュータの登場によって「物知りの馬鹿」になったということ。

イ コンピューターの登場によって、中学卒の人よりも大学卒のほうが、単純な知識量ですぐれるようになったということ。

ウ コンピューターの記憶は正確無比で、記憶と知識に関してだけ、人間がコンピュータに負けるようになったということ。

エ コンピューターの持つ記憶力と再生力によって、人間というものの本来の力が何なのかということに気づいたということ。

オ 人間のつくったコンピュータが人間の代わりに仕事をするようになり、人間が仕事を奪われるようになったということ。

問八——線部⑤「無比」・⑦「保守的」・⑧「名だたる」の意味として最もふさわしいものを、それぞれ次のア～オの中から選
び、記号で答えなさい。

⑤「無比」
|| ア まちがいないこと

ア まちがないこと
イ 優劣がまつたくないこと
ウ 他にくらべるものがないこと
エ 限界を知らないこと

⑦「保守的」
Ⅱ ア 社会生活の秩序を保とうとする様子

イ 進歩する気がなく、現状で満足する様子
エ 旧来のものを重んじ、保存しようとする様子

ウ 大切なものをなくさないようにする様子
工 旧来のものを重んじ、保存しようとする様子

⑧ 「名だたる」 || ア 数多くある
イ 評判が高く有名な

ア 数多くある
イ 評判が高く有名な
ウ 昔からある
エ なくてはならない
オ 名目だけで中味がない

問九——線部⑥「そんなのんきな時代」とはどんな時代ですか。本文中の語句を用いて五十字以内で説明しなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの符号も一字と数えます。

問十 本文の内容の展開の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「忘れる」のが難しい ↓ 知識量と思考力は反比例する ↓ 人間とコンピュータの違い ↓ 生まれた直後は誰もが天才
イ 人間とコンピュータの違い ↓ 生まれた直後は誰もが天才 ↓ 知識量と思考力は反比例する ↓ 「忘れる」のが難しい
ウ 知識量と思考力は反比例する ↓ 人間とコンピュータの違い ↓ 生まれた直後は誰もが天才 ↓ 「忘れる」のが難しい
エ 生まれた直後は誰もが天才 ↓ 知識量と思考力は反比例する ↓ 「忘れる」のが難しい ↓ 人間とコンピュータの違い
オ 知識量と思考力は反比例する ↓ 「忘れる」のが難しい ↓ 生まれた直後は誰もが天才 ↓ 人間とコンピュータの違い

問十一 次のア～クの中から本文の内容にあうものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 知識がありがたかるのは歴史的なもので、日本では一六世紀の終わり頃から教育機関で知識を身につけることを教えた。
イ 知識が増えるとものを考える力は減つていく傾向にあるが、心ある人は知識が増えても、ものを考える力を失わない。
ウ 名門の学校を卒業した人は皆、知識や技術は持つていても、自分でものを考えて人のために働くという精神が欠けている。
エ ほとんどすべての子どもが天才的能力を持つて生まれてくるが、だいたいがその能力を活かしきれずに枯らせてしまう。
オ これまで人類は教育というものに関して、知識を取り込む正しい方法を見つけるためにいろいろな努力をしてきた。
カ 子どもは赤ん坊の頃からきちんとことばを教えてくれない大人の中にあつて、自分自身の力で文法をつくりあげる。
キ 人間がコンピューターに勝つためにはまず、どうしたら立派な人間になれるのかという問題を深刻に考える必要がある。
ク いったん捨てて、新しい考えをしぼり出すという思考力を身につけたとしても、人間が存在価値を見失うことはある。

国語
出身校
私市立 区立 小学校
受験番号
氏名
得点

[illegible]

問二		問一	
④	①	④	①
試 し	健 やか	く ココロヨ	キ ヨウソウ
⑤	②	⑤	②
功 名	反 射	う イワ	ボ ウエキ
⑥	③	⑥	③
訪 ねる	芸 術	シンソウ ウ	クウゼン

配点